

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 14

2015年6月2日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 顔の見える地域への旗手（船頭）

### —西ネットの役割を考える—

金田利子（元白梅学園大学教授）

小平市の職場（白梅学園大学）に八王子市から通っていたのが5年間、市の住民になってからも7年目になり、合わせて12年間小平市に関わって生活してきました。小平市のよいところと、「ちょっと変じゃないの」という所の両方がよく見えるようになりました。

良いところは後に書きますが、ぜひ考えた方がいいと日々感じている点について先に書かせていただきます。私の住んでいる武蔵野美大付近にはパンやインスタント食品を売っている小さなお店が1軒ある以外には食料や日用品を売る店は全くありません。新宿まで通勤していることもあり、私の買物はほとんどが国分寺駅構内か周辺です。通勤しなくなったらすぐ買い物難民になってしまいます。

小平市に随分税金を払っています。本来消費税もたくさん小平市に落ちるはずなのですが、すべて国分寺市に行ってしまいます。同じ多摩地域でどこが潤ってもお互い様という考えもありますが、まず自分の住んでいる自治体を豊かにしていくことは大事な自治体だと思うと、やはり納得がいきませんし、自治体の運営としてもみすみす税金を他の市に渡しているのは、あまりにも能がないのではないかと思う次第です。住みよいまちづくりに向けての改善点の一つです。しかし、さすが市民の力でコミタクや虹バスがこの辺にも通るよう陳情しているとのこと、私ももちろん署名しました。西ネットの会でも話題になっているので、きっと、市を動かす力になるものと思います。

良いところはたくさんあります。①緑が豊かなこと、

#### 「西地区地域ネットワーク」って何？

2012年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

②農業が位置づいていること、③元からいる住民と転入の住民が溶け合っているように見えること、④大学が人口18万都市に7校もあり、市民と信頼関係にあること、等々が挙げられます。

この4つ目の良さがここ西ネットに現れています。12年間も関わっているのに地域に住んでいる方で、顔と名前が一致した方が、少しでもできたのは、やっとな最近です。まさに西ネットのお陰です。

地域で起こるさまざまな出来事を第三者的に受け止めてしまっているのは、地域はよくなりません。かといって自と他の区別がないほど近くては、プライバシーが守られません。適度な距離を置きつつかけがえのない我が生活の仲間、つまり第三者として大事にしあっていく、日常的に顔の見える地域にしていく、その方向を広め、深めていくとりのくみの先頭に立っていく旗手（船頭）、それこそ我が西ネットだと思います。このネットの縁の下の力持ちの皆様に感謝申し上げます。

## 第 17 回地域懇談会講演

# 「民生児童委員の役割－お互い様の活動から」

## 市東和子氏（小平市民生児童委員協議会会長）

### 1. 民生委員制度とは

民生委員は大正6年に岡山で始まり、その後東京などにも広がったもので、平成29（2017）年でちょうど100周年になります。この大会が東京で行われる予定ですがその準備を行っているところです。民生委員は民生委員法で定められていて、身分は地方公務員法の特別職扱いで無給職です。手元のチラシはできたてですが簡略に書かれていますので参考にしてください。

私たちは東京都の審査会を経て民生委員として登録されていますが、現在東京都では10,700人、小平市では138人が定員となっています。そのうち12名が主任児童委員となっています。活動としては協議会を中心とした活動と援助活動があり、地域福祉の向上に努めています。一人一人の担当地域があり、人口比では平均600件程度になりますが、担当地域の枠を超えて行うものもあります。現在は、高齢福祉部会、障がい福祉部会、児童福祉部会、生活福祉部会、子育て支援部会、そして主任児童委員部会があり、それぞれの部会での取組みも行われています。

日常的には部会として小平市全体で集まる場合もありますが、6つの地区に分かれて活動しています。私の地区でいえば地域包括支援センターや生活福祉ケースワーカーとの情報交換をはじめとして学校訪問や地域での行事などの支援を行っています。

### 2. 「災害時一人も見逃さない運動」について

90周年の記念事業として始まったのが災害時の地域連携の取組みです。私の地区では小平市の委嘱を受けて地域の防災訓練に取り組みました。小平二中を会場に障がい者を含めた防災訓練を行いました。それを発展させて地区全体での取組みとして今年度で5回目になります。小平特別支援学校を会場にして民生児童委員協議会と障害者福祉センター、それに小平市十三小等が協力して行っています。

障害者を含めた要援護者については2009年より小平

市は「災害時要援護者情報カード」に取り組み、市に登録することによって災害時に民生児童委員が援助するシステムができています。対象は障害者手帳を持っている1級と2級の障害者、及び要介護の人たちです。残念ながらまだ登録していない方もいますが、日常的に声をかけるシステムとして進んでいます。民生委員一人が20件から50件程度担当しています。小平市ではこのカードを配布する対象が4000人ほどいしましたが、カードが戻ってきたのは4割程度です。まだまだ意識として声を発する意識が弱いのではないかと感じていますが、現在は75歳以上で健康に不安のある方も対象に考えています。また消防署との連携も行っています。消防士さんと一緒に訪問して防火防災診断を行うということもやっています。

### 3. 平常時の取組みとして

民生児童委員は一人一人がマップを持っていて、高齢者や未就学児をそのマップに落としていきます。一人ですべてをやるのは大変なので、私のところでは地域で考える災害対策ということで、十三小の協力を得て、学校周辺にお住いの自治会、高齢者クラブ、ボランティアの方や青少対の方々に私たちのやっていることを広報し、社協の協力を得て、阪神淡路大震災のテープを流してもらって防災を考えるという企画を行いました。自治会の組織は40%程度なので、ポスティングを行って自治会に入っていない人たちにも同じような声掛けを行いました。

そうした経過を踏まえて、翌年に小平十三小地区防災ネットワークを立ち上げ、前に述べたように特別支援学校等に、災害時には支援していただくという協力を得ることが出来ました。そして地域内にある大学校には寮があつて24時間若い人たちがいるわけですから、災害時には協力してもらおうことができると考えたわけです。

翌年小平市の災害時要援護者の避難支援推進モデル地区への呼びかけがあり、特別支援学校をお借りして防

災訓練を行いました。特別支援学校は第二次避難所ということなので、地域にこんな良い場所があるということを知ってもらおうという狙いもありました。私は特別支援学校の第三者委員でもあり、障害者福祉センターや障がい児の放課後子どもクラブを担当する「あすなろ」との連携もあったので、取り組んでみました。平成 22 (2010) 年と平成 23 (2011) 年は 70 人規模でしたが、平成 24 年度は近くにある生協の協力を得て材料の提供をいただき、豚汁とアルファ米の炊き出し訓練も加えました。それは共助としての「近所力」を高めることも視野に入れました。小平十三小地区には 8 人の民生委員と主任児童委員が一人いるので、その担当地域ごとに参加者が集まれるように掲示板や机などを配置しました。また校区外の参加者のために別の話し合いブロックを準備しました。会場には飽きてしまうことも考慮してハンドアーチェリーなどのコーナーも設置しました。

全体会では小平市長や社協の会長のあいさつをいただくとともに、

#### 4. 啓発活動の取組みとして

岡山での取組みが 5 月 12 日に始まったということで、その日が民生委員の日となっています。小平市でもその日から 15 日まで、市役所を借りて民生児童委員協議会の宣伝活動を行いました。今年度は中央公民館のギャラリーを借りて行うことになっています。

介護保険の制度が変わり、地域包括ケアシステムが導入されていますが、私たちも医療と介護の支援に力を入れています。この地域はけやきの郷が地域包括ケアのセンターになっていますが、私とこの地区の代表になっている民生児童委員が会議に参加しています。

子ども件についてですが、川崎の事件では考えさせられましたが、小平児童相談所と小平市教育委員会、小中学校校長会、子ども家庭支援センターと私たち民生児童委員が一堂に集まって協議会を開催しております（地区連絡協議会）が、今年で 15 年目です。

#### 5. 個別支援活動とは

市内を 6 地区に分けていることは触れました。前述の様に一人が平均で 600 世帯を受け持っていますが、全国平均は 450 世帯です。地域内に住む要援護者に対してニーズに合わせた支援を行っています。具体的には高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活困窮者支援、虐待防止のための発見など地域福祉に関わるものです。専門職

ではありませんが、小平市や関係機関からの情報提供を得て、活動を続けています。今年からは精神障がいの方々の支援ということで保健師さんとの連携も行うことになっています。

民生児童委員は同時に小平市の社会福祉協力委員及び小平市社会福祉協議会の協力委員となり、3 枚の委嘱状をもらいます。88 歳と 100 歳へのお祝い金を届けたり、お風呂のないところに入浴券を配布したりすることも行っています。

大阪の池田小学校の事件を受けて学校は地域に開くべきかどうかの議論があり、小平では開いていくことが必要ではないかということで、十三小において「触れ合い給食」に取り組みました。地域の高齢の方々が小学校に出向いて子どもたちと一緒に給食を食べるということですが、元気な高齢者はそれをきっかけに学校のボランティアとして活動してくれるようになっています。また「たんぼぼの会」は民生委員がコーディネイトしているのですが、地域の人に本を読んでもらうという時間を作りました。

私自身の事例ですが、15 年ほど前に 40 歳の女性と 70 歳代の母親と一緒に住んでいて、国民年金のことで相談されたので市役所に一緒に行きました。その途中でお母さんは娘さんが引きこもっていて大変な状態であることを話してくれたので、保健師さんを入れてお医者さんの診断を受け、薬の効果もあって徐々に回復して行ったということがあります。

民生児童委員は無給職ではありますが、一人でも役に立ったということがあればやっていてよかったと思えます。多くの人々の支えによってこの仕事が続いていることを感謝しています。（瀧口要約）



## ☆☆ブロックだより☆☆

「小平西ネット」は、小平市の府中街道の西側地域を4つのブロックに分けて交流などをすすめています。そのブロックごとの取組みを以下に報告させていただきます。

### 第一ブロック報告（小川西町・栄町）

2月27日に障害者福祉センターの地域懇談会に白梅学園大学としてはじめて参加し、様々な団体がセンターに関わっていることを理解するとともに、大学として学生がどのように参加できるのか考える機会にもなりました。

2月25日には栄町地域の若いお母さん方で組織している「ママガール」と地域のコミュニティタクシーの運動を進めてきている皆さんとの話し合いの場に参加し、地域の交流が必要な状況について交換しました。更に3月9日、5月18日と交流を継続し、6月21日には狐原キャンプ場においてバーベキュー交流を行う予定です。

3月7日の懇談会後の集まりでは市東さんの話を受けて地域をどのようにつくっていくのが話題となり、3月17日、4月21日、5月19日のブロック世話人会には市東さん自ら参加してくれて、この地域の課題と今後

の希望なども提案してくれました。また4月から小平市役所の組織が変わり、地域文化課がなくなり、市民協働・男女参画推進課になることも報告されました。

4月の懇談会では、小川ホームを利用して、高齢者と子どもの交流ができないかという話が出され、ブロックとしても積極的に対応していくことが確認されました。5月の懇談会では更に具体化が相談されて、夏の実施に向けて詰めていくことになりました。なおこの日は終了後有志で交流を図り、新しい地域づくりに向けて遅くまで深めました。地域の居場所をどのようにつくっていくのか、そのヒントなども出されています。

顔の見える関係を作っていくことは簡単ではありませんが、やってみようという人がいる限り前進していくのではないかと思える会合です（文責：瀧口）

### 第二ブロック報告

#### （小川町・中島町・上水新町1丁目）

4月4日（土）午後 上水地域センターにおいて、打ち合わせ会を持ちました。

参加者は10名、世話人の芳井さん、足立さん、早田さん、関谷に加えて、けやきの郷包括支援センターの柳田さん、曙光園の大島さん、黎明会の今野さん、上宿小学校学校支援コーディネーター菊地さん、十二小の城戸さん、市会議員の立花さんと多彩な顔触れでした。

芳井さんが昨年の活動を報告し、続いて今年度の活動について話し合いました。

①防災キャンプを今年も開催すること。②各部署の事業に参加協力し合い、顔の見える街づくりを強めることを確認しました。情報交換を密接に行うために2か月に一回程度のブロックの会を持つことを決めました。

フリートークの内容を紹介します。

◎防災キャンプをイベントで終わらせず継続していきたい。武蔵野美大の後藤教授との縁ができた。学生が作成

した防災クエスト（ゲームで防災を楽しく学ぶアプリ）が紹介された。上宿小学校では青少対祭りで子どもたちが体験し好評であった。また青少対のスタッフでマスターして実施したいとの意見も出された。12小でも実施したいと評判が広がっている。

◎「けやきの郷地域包括支援センター」では「認知症予防脳トレ講座」を毎週木曜日に行っている。認知症ネットカフェの開催を検討中。空き家などの活用を行いたい。（柳田さん）

◎小平市内の大学がブルーベリー・リーグと称して地域の団体との学生との連携の場がある。（関谷）

◎曙光園では8月に納涼祭を計画中である。（大島さん）

◎「自由遊びの会」は8月19日から23日まで「森で遊ぼう」を企画（足立さん）

◎上宿小まつりは12月8日（菊地さん）

◎避難所マニュアルがないので是非作るべきだと企画し

ている。(立花さん)

◎黎明会と東小川橋防災連合会は東京防災隣組認定団体になっているが、地域での活動の場所を求めている。後継者も作りたいので若者の参加を期待している。(早田さん)

第二ブロックには、小学校、保育所、高齢者や障害者福祉施設など多彩な施設があります。また道路が出来たり、住宅開発が進み、今後も様々な地域ニーズが顕在化すると考えます。みんなが出来ることから一歩ずつ踏み出せば大きな力になることでしょう。(文責：関谷)

## 第三ブロック報告

(小川町・上水新町2丁目)

### 新コミュニティ・サロン「ほっとスペースきよか」開所しました！

#### 「ほっとスペースきよか」とは

白梅学園のすぐ北側で小平第五中学校に隣接する地域に開所したコミュニティーサロン「ほっとスペースきよか」は、この家に長くお住まいで、民生・児童委員を経験された北沢清香さんの名前をいただいてつけたものです。当日は横浜から息子さん(家主)にも駆けつけていただきました。

1年半前から第3ブロックが中心になって月に1回、この3月からは月に2回集まって準備を重ねてきましたが、5月18日(月)に開所式を行いました。進行は地域スタッフの伊藤さんです。

#### 地域の居場所に－40人が参加しました



西ネット代表の草野先生からは、この1年半の経過の中で、民生児童委員の石川さんをはじめとして地域の人たちが中心になって取り組んできたパワーと、白梅の西ネットの願いが重なり合って実現した喜びが語られました。続いて「きよか」の家主である北沢さんから、思い出の家がこのように地域の役に立っていることに感激していること、いつか自分もこの地に戻ってこれたらという熱い思いも語っていただきました。更に地域



で民生児童委員として活動し、この「きよか」を託されてきた石川さんから、世代間の交流を含めて「地域の居場所になる」ように交流を進めていきたいこと、またそうした声があることが紹介されました。

#### 期待と願い

続いて参加者からは「きよか」への期待と願いが語られました。石井さんからは、社会福祉協議会の立場からの願いと呼びかけ、渡辺さんからは先輩として既に2年以上運営をすすめてきている「ほっとスペースさつき」の経験、白梅の森山さんからは、「さつき」において学生が関わっている様子と「きよか」への学生の参加についての思い等が出されています。大学院生としてこの「きよ



か」の運営に関わっている森田さんからは、インターネットを通じての宣伝を通して新たな人のつながりも出てきていること、若者が関わることの

意味なども語られました。

### 食べながらの交流

「きよか」の楽しみは「食べながら語り合うこと」です。開催日には地域のスタッフが作ったものを持ち寄り、食べながら語り合います。この日も後半は食べながらの交流でした。いつもはその日の話題提供者がいて、自分の体験や思いを語り、それをきっかけに会話をすすめていくスタイルですが、この日はみんなで「きよか」への想いを語り合いました。最後に地域スタッフの財前さん

からこれからも楽しく交流を進めましょうということで閉会となりました。

なお「きよか」の代表は石川さんと草野さん、副代表が伊藤さん、西方さん、会計が鈴木さん、会計監査として財前さん、野島さん、事務局が森田さんと瀧口真央さん、古瀬さんがあたることになりました。今後は毎月第1と第3月曜日の13時30分～15時30分まで開催されます。皆様、ぜひお立ち寄りください。

## 第四ブロック報告

(小川町・上水新町3丁目・たかの台・上水本町1丁目・津田町1丁目)

### ほっとスペースさつき 第6回ミニバザー

2015年5月24日(日)10時～15時の時間帯で、第6回目のミニバザーが行われました。

昨日までの天気予報では、「曇りのち雨」でしたので心配したのですが、当日は終日晴天に恵まれ、日中は暑いぐらいでした。金曜日～土曜日と二日にかけて品物の値付けをされたスタッフもあり、部屋の中は沢山のバザーの品物でいっぱいでした。雨だったらと思いながらも、品



物が見る見るうちになくなり、Tさんと森山が揃うと「雨風に見舞われる」という汚名も何とか返上することができました。

恒例の「関谷農園」からの農作物を心待ちにして、開会の午前10時前から来訪された方々もあり、10時過ぎに農作物が届くと、わずか15分足らずで多くのものが売り切れてしまいました。

バザーの開催は、資金集めもありますが、日頃の世代間交流の場と同様にさまざまな方との出会いの場づくりでもあります。当日は、日頃からさつきにお見えになる方々、第一小学校のPTAの方々、小学生の子どもたち、森山専門ゼミの3年生、子育て広場の学生などが、三々五々に現れました。来訪者もスタッフも適宜水分補給をしながら、コミュニケーションが図れた数時間でした。

次回は11月の予定です。小春日和でありますように。

森山千賀子(ほっとスペースさつき副代表・白梅学園大学)

## 平成27年度「ほっとスペースさつき」

### 社会福祉協議会より助成を受ける!

今年度より、小平市社会福祉協議会において、年末助け合い運動の資金の助成金応募が実施されました。応募した結果、助成を受けられることになりました。

市民の皆さんの尊い志のお金を助成していただいた上は、地域の皆様のためにしっかりと役立たせるよう頑張りたいと思います。

(ほっとスペースさつき代表 渡辺穂積記)

# 「小平市の街づくりの特徴－生活・歴史・文化－③」

蛭田廣一氏 （元小平市市史編纂課長）

## ②東山道武蔵路と鎌倉街道上道

では具体的に歴史が、記録され刻まれている中でどんなことがわるのかということが、「東山道武蔵道」と鎌倉街道上道のことで、東山道というのは歴史の古代史の中でよく出てくる地域であり、これは道なんですね。まさにいまも東山道というのは長野県を通過して群馬県から府中に入ってくる道で、古代の1つの幹線道路であります。それが実は府中と群馬県を結ぶ東山道武蔵道という道路が小平から出ているのです。これは発掘調査でも行われています。今の鎌倉街道のちょっと東にずれているのですが、そこからなんと12メートルという、古代で12メートル道路ですよ、そしてなおかつ両側に側溝が掘られている、こういう道路が発掘されてきているんです。

これは小平から掘ったのは、たまたまついでに確認のために掘っただけで、国分寺の方は本格的な発掘調査が行われていますし、所沢でも発掘調査が行われています。つまりその間を結ぶということで小平も確認されたわけです。それはまさに12メートル道路で、側溝がある道路、で両方につながっています。それを是非見たいという方は西国分寺駅の南側に行ってみてください。道路がどのような道幅で発掘されたのか分かるように、確認できるように表示されています。そういう経験もしてもらおうと、古代にこんな広い道路が小平に通っていたんだということを経験していただけたらと思います。

それと鎌倉街道、こちらはぐっと道は細くなるようですが、この鎌倉街道も道標がたっているあの辺を通過していたということが分かります。しかもこの鎌倉街道というのは、上の道、中の道、下の道の3本が幹線道路として南北に通っているのですが、そのうちの1本の幹線道路が小平を通過していました。

鎌倉時代は鎌倉に続く道がすべて鎌倉の道と呼ばれていますので、いろんなところに鎌倉街道や鎌倉

道という伝説や史跡が残されているんですが、そういう中でも幹線道路というのは3つしかなく、その一つである上の道が小平を通過していたことをまずわかっていただきたい。つまり小平は古代から中世を経て南北に関しては幹線道路が通過していた。たまたまそこは台地状で人はすめなかったということであって、歴史は刻まれています。どういう歴史かと言いますと一番顕著なのが新田義貞の鎌倉攻めです。これは鎌倉街道の上の道を攻め上っていくわけです。新田義貞というのは群馬県の方に住んでいたわけですので、そこから鎌倉へ攻め上っていく。その間一番近くですと八国山のちょうど南側に久米という地域があるのですが、久米川の戦いというのが歴史上あります。これは大きな鎌倉勢と新田軍との戦いでして、戦乱の巷になったといことは歴史上明らかです。そのことが記録された板碑が実は残っているのです。東村山の歴史資料館に板碑が残っています。たいそう立派な大きな石で造られた板碑です。板碑というのは供養する碑ですので、戦乱の巷になったということを書いたと考えられているわけです。貞和という年代に建てられた板碑であることは年号が刻まれていて確かなわけです。

その板碑がなぜ東村山にあるかということですが、東村山の歴史資料館のレプリカがあるのです。驚くなかれ、これは府中のくらやみ祭りのときに、東村山の野口村の人たちが、祭りの勢いをかって、石塔が窪から東村山に運んできた板碑だったという風な主旨の説明がしてあります。石塔が窪というのは、まさに小平の鎌倉街道沿いの青梅街道から北に入った地域、ここはちょっと窪地になっていて、石塔が窪って言うんですね。これは小川家の記録にも出てくる地名です。なぜ石塔が窪っていいのか、小平の人たちはそういう地名だからと思い込んできました。

(続く)

# 送る会を終えて いま思うこと

## 白梅学園大学 3年 松井友莉那

私がこの勉強会に初めて参加したのは、大学1年の冬でした。1年間の活動を経て、はじめは勉強になかなか気持ちが向かなかった生徒たちが、自分から勉強しようという意欲をもち、変わっていく過程を見守ることができました。

おそらく生徒たちの勉強に対する「困り感」は、どこがわからないのかわからない、どうやって勉強したらいいのかわからない、というところから来ているのだと思います。私自身、勉強を教えるのは初めてで、どうすれば楽しく、自分から勉強をしようという気持ちになれるのだろうか、日々、頭を悩ませました。お互いに手探りの状況でしたが、それでも一緒に問題を考え、勉強のこと、学校のこと…いろいろな話をしました。

生徒たちが変わってきたと感じたのは、今年の冬頃でした。特に3年生は高校受験を控え、学習時間が終わっても残って勉強している子、その子を待っている間にみんなで問題を出し合ったりする、といった意欲的な学び合いの姿がありました。同時に、勉強をしているときに「わかった!」「できた!」と嬉しい反応も多くなってきました。この「わかった!」「できた!」といった喜びを共有することこそが「わかった会(わかったかい?)」の本質ではないでしょうか。



よく「勉強ができない」とか「勉強が嫌いだ」という生徒がいます。私は、彼らのもっている勉強に対する「困り感」は「わかった!」「できた!」に出会うことで少しずつかしていけるのではないかと考えます。それは誰かから与えられるものではなく自分でつかむものですが、その環境を整え、共感することは私たち講師にもできることです。学校生活、部活、友達関係、やりたいこともたくさんある中で、勉強を頑張ったこと、自分の将来に向き合えたことは、彼らがこの先を自分で進んでいくための力になるのではないかと思います。そして生徒たちの「わかった!」「できた!」に出会えることが嬉しく、私の力になっています。ありがとう。

## 二中学区教育懇談会と仲間たち

### 菅谷正見（元小平十三小教諭）

#### 毎月一回の教育懇談会

小平二中学区には、小さな教育懇談会があります。お世話をしているのは小平六小の現職の先生と、小平十三小を退職した先生です。名前は「小平二中学区教育懇談会」・・・なんて分かりやすい名前♪ 毎回ポスターを作って小川西町公民館と小平十三小門前にはっています。十三小には、教育懇談会の常連の一人で子どもたちを熱心に世話している校庭開放指導員

がポスターをはっていています。

懇談会は、毎月一回やっています。月のなかばの水曜の夜7時から、小川西町公民館が会場です。テーマは、「みんなで悩みを出しあって」とか「子どもとスマートフォン」とか「新しい教科書のこと」とか「子どもと宿題について」とか、そのつど相談して決めています。「みんなで悩みを・・・」なんていうのは、テーマがないようなもので、その場で子どものことで

困っていることの話がでると、みんなが自分の経験を話したり、わが子のようにすを出しあったり、そんな懇談会です。四月十五日には、白梅の奈良先生を話題提供者に、小学校で扱いが重くなる英語のことについて話し合いました。

## 懇談会から生まれた勉強会

もう、だいぶ前の懇談会の中で、子どもが勉強についていけないでこまっているという話の中から、子どもたちの勉強会をやってみようという話になって始まったのが、「勉強会」です。

懇談会に出ている二中学区の小学校の現職・退職の教職員や地域に住んでいる教職員、地域の少年団の指導員、大学生などの数名が、指導員になって勉強会を支えています。

小学生が中心で中学生も少し交じる子どもたちが、十人前後集まって、まず自分が持ってきた宿題などの課題をやります。分からないところがあると、指導員に聞いて勉強を進めます。自分の持ってきた課題が終わった子がやるための算数と漢字のプリントも用意してあります。

今年の三月までは、毎月一回くらい、そのつど日を決めてやっていました。その中で熱心に通ってきていた当時小学四年生の子からお母さんに「勉強会を毎週やってほしいって懇談会でお願いして！」という要求が出されました。私たちはその声を受け止めて懇談会で相談、毎週は無理だけど月に二回定例化しよう決めました。今年四月からは第二第四土曜日の午後一時半から三時半小川西町公民館でやっています。

## 地域にある少年団にも支えられて

小平二中学区には「竹の子少年団」という小さいけれどがんばっている少年団があります。地域の青年、大学生や高校生が指導員になって子どもたちの活動を支えています。子どもたちは、公園で遊んだり、映画会をやったり、そろいの帽子を作ったり、缶バッジを作ったり、ケーキを作ったり、キャンプに行った

り、みんなで小平の青空学校に参加したり、楽しく活動しています。

勉強会にほとんど毎回のように通ってきて、この頃はともしっかり勉強しているふたりの五年生は、竹の子少年団の仲間です。そして、二中学区教育懇談



会にいつも参加してくれて、子どもの話をたくさんしてくれるお母さんたちの中に、この少年団の保護者がいます。

小平二中学区の小さな教育懇談会とそこから生まれた小さな勉強会は、地域のいろいろな人たちに支えられ、地域でがんばっている少年団の力にも支えられて続いています。こんな関係がいろいろ生まれて、子どもたちをあたたく包み込む人のつながりが広がっていくといいなと思います。

学区の小さな懇談会、あなたの学区でも始めてみませんか。

———お願いです———

<地域の主役を教えてください>

今回の小川西公民館での学習会の様に、地域に結びついて様々な活動をしている人は少なくありません。小平西地区（府中街道より西）に在住、あるいは在勤で地域のことに積極的に取り組んでいる人を紹介してください。連絡は事務局までお願いします。

## 【小平市役所の組織改革について】

小平市は2015年4月より、市役所内部の組織を変えています。今までの課と名前が変わったところ、あるいは名前がなくなった課、新しい課ができたところなど様々ですが、西ネットは市役所のできるだけ多くの部課とつながりを持っていくことが「顔の

見える」関係をきずくことにもつながって行くと考えて意識してきました。以下新しい部課名です。備考欄の☆印は西ネットとして重要な関係があると判断しているものです。

部	課(担当)	長	担当業務	備考	
1	議会事務局				
2 企画政策部 (斉藤豊)	政策課	安部幸一郎	市制の基本方針、総合計画、行政評価		
	秘書広報課	小松耕輔	市長、副市長の秘書、表彰、市報の発行	☆	
	情報政策課	橋田 真	情報化推進、情報処理システムの企画等		
	行政経営課	阿部 裕	組織、定数、行政改革の推進等		
	財務担当 (片桐英樹)	財政課	橋本隆寛	財政計画、予算の編成、執行管理	
	財産管理課	片桐英樹	公有財産の調整、公共用地の取得・処分		
3 総務部 (鳥越恵子)	総務課	柳瀬正明	庁舎管理、文書管理、法務、情報公開等		
	契約検査課	阿部和幸	工事・物品・その他の契約・検査		
	検査担当	石川順一	工事・物品その他の検査		
	職員課	斉藤武史	職員の人事、研修、給与、福利厚生、		
	労務人事制度担当	黒山忠成	職員団体、人事給与制度		
	危機管理 (野田)	危機管理課	金子一道	防災、災害対策、消防、国民保護	☆
	地域安全課			防犯	☆
4 市民部 (平尾達朗)	市民課	和田明浩	戸籍、住民基本台帳、都営住宅等	☆	
	税務課	深谷 達	市税の賦課、税関係証明書発行		
	収納課	宇野智則	市税などの収納・徴収、納税証明書発行		
	市民相談課	後藤 仁	市民相談、広聴、市政資料コーナー他	☆	
5 地域振興部 (瀧澤清児)	市民協働・男女参画推進課	篠宮智巳	市民協働、男女平等の推進、市民活動団体への支援、自治会の支援、地域センター	☆	
	産業振興課	板谷扇一郎	農業振興、商工業振興、観光街づくり	☆	
	文化スポーツ課	永田達也	文化・国際交流、文化財の調査・保護等	☆	
	スポーツ振興担当	照井幸枝	スポーツ・レクリエーション振興	☆	
6 こども家庭部 (石川進司)	子育て支援課	小島淳生	子育て相談、子ども広場、児童館等	☆	
	家庭支援担当	伊藤祐子	家庭支援	☆	
	保育課	小松耕輔	市立・私立保育園、認定こども園等	☆	
	保育指導担当	永作純子	子育て支援	☆	
7 健康福祉部 (橋田秀和)	生活支援課	住田大一郎	福祉計画の推進、民生児童委員等	☆	
	高齢者支援課	大平真一	介護保険事業計画、要介護等認定、介護サービス計画、高齢者住宅、高齢クラブ等	☆	
	地域包括ケア推進	細谷毅	地域包括ケア、地域支援事業等	☆	

保険担当 (武藤眞仁)	障がい者支援課	河原順一	障がい福祉サービス、障害者手当等	☆
	健康推進課	鶴巻好生	健(検)診、予防接種、母子保健、健康推進事業、健康相談	☆
	保険年金課	川上吉晴	国民健康保険、国民健康保険税の賦課、国民年金、後期高齢者医療制度	☆
8 環境部 (岡村秀哉)	環境政策課	近藤和哉	環境施策の企画調整、地球温暖化対策等	☆
	資源循環課	白倉克彦	廃棄物の発生抑制・再利用・処理	
	水と緑と公園課	藤川晶雄	公園用水路の整備・維持管理、緑の保全	☆
	下水道課	田中博晶	下水道の計画・設計・工事管理・維持管理	
9 都市開発部 (津崎陽彦)  都市建設担当 (清水幸世)	都市計画課	奈良 勝己	都市計画、宅地開発・地区計画等の指導	☆
	公共交通課	余語 聰	コミュニティバス(にじバス)、コミュニティタクシー(ぶるべー号)	☆
	地域整備支援課	村田 潔	土地区画整理事業の支援等	
	道路課	清水克敏	市道の維持管理、認定、廃止	☆
	公共工事担当	菊田隆幸	土木工事の設計・工事管理等	
	都市計画道路担当	首藤博之	都市計画道路の整備	
	交通対策課	槇口 勝己	交通安全対策、放置自転車対策等	☆
施設設備課	後藤 信幸	市有建物の設計・工事監理・保全管理		
10 会計管理者 (長塩三千行)	会計課	中島	公金の出納、物品の管理	
11 教育部 (有川知樹) 教育指導担当 (高橋亨) 地域学習担当 (松原悦子)	教育総務課	滝澤文夫	教育委員会の会議、教育施設の営繕・維持	☆
	学務課	坂本仲之	児童生徒の就学・転学、学校保健等	☆
	指導課	高橋 亨	学習指導、生活指導、教職員の人事等	☆
	教育施策推進担当	小林邦子	教育相談室、帰国児童生徒教室等	☆
	地域学習支援課	相澤良子	青少年健全育成、社会教育委員等	☆
	公民館	屋敷元信	学級・講座・講習会・講演会の開催	☆
	図書館	湯沢瑞彦	図書館の閲覧・貸出、地域資料の収集等	☆
選挙管理委員会			選挙の執行管理、選挙啓発	
監査事務局			財務事務などの監査・検査・審査	
農業委員会	産業振興課		農地利用の調整、農業経営生産等の調査等	☆

#### <コメント>

行政は市民の声によって動いてくれます。日々ぶつかる問題について常に声をあげていくことが必要であり、それを行っていく為には、どういう組織になっていてどんな仕事をしているのか、どんな人が上に立っているのか等を意識しなければなりません。そして3年前後でその部署から異動してしまうことが多いですから、常に新しい人との関係を作ってい

く必要があります。それは行政側も同じで、常に地域との関係をつくらないと市民とかけ離れたところで決定がなされる心配があります。

小平西地区地域ネットワークは、行政の重要さを視野に入れながら、行政との連携を重視していくことにしています。

## 皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (下の地図を参照)

### ① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00~16:00

問合わせ: 渡辺穂積

TEL: 042-344-7412

### ② ほっとスペースきよか

毎月第1・3月曜 13:30~15:30

問合わせ: 石川貞子

TEL: 090-7732-2089

### ③ アットホームはぎ

毎月7, 17, 27日: 14:00~17:00

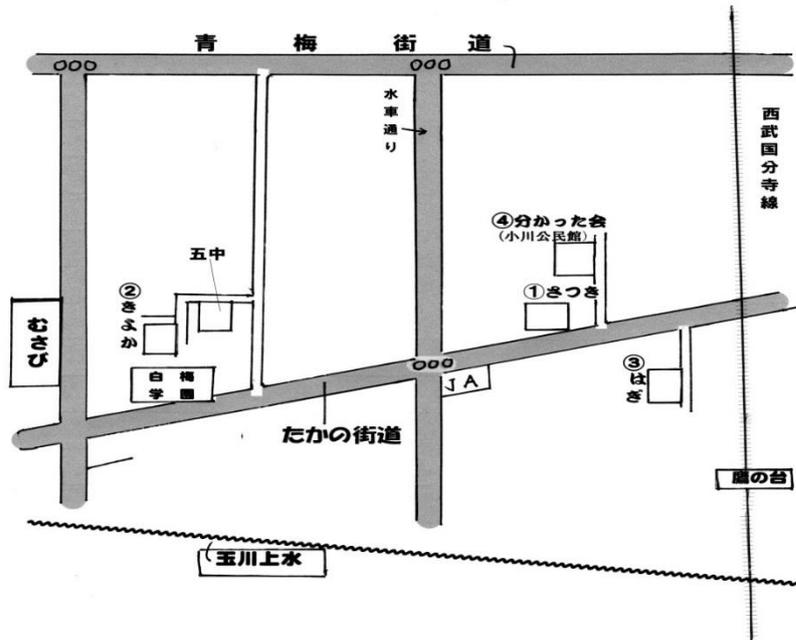
問合わせ: 萩谷洋子: 042-342-1738

### ④ 中学生無料勉強会(小川公民館内)

毎週木曜日 18:00~20:30

問合わせ: 奈良勝行 (生徒募集中!)

[TEL:090-4435-4306](tel:090-4435-4306)



## イベントの予定

☆6/12 (金) 午後、学内コミカフェ

☆6/19 (金) 夕方、ほたるの夕べ (一小青少対)

☆6/21 (日) ママガール・バーベキュー (きつねっばら)

☆6/28 (日) NPO フェスタ・ムサビ

☆7/4 (土) 1:00~ 子育て広場

☆7/10 (金) 午後、学内コミカフェ

☆7/18 (土) 納涼祭 (一小青少対)

☆8月19日 (土) ~23日 (日) 「森で遊ぼう」

「自由遊びの会」問合わせ: 足立 090-1771-7431

☆8月23日 (日) 又は30日 (日) 曙光園納涼祭

## 西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦	瀧口 優 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子 久保田進・穂積健児	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

## 西ネットの今後の予定

学内会議: 6/23, 7/21, 8/4, 10/13, 12/1, 1/12, 2/2

世話人会: 7 / 7, 9 / 8, 11/24, 2/ 16

懇談会 : 9/29, 12/15, 3/ 12

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。奈良: メールアドレス [ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

編集後記 各ブロックが編集を担当するようになって一回りが終わりました。地域の声を聞きながら原稿を集めることはなかなか大変です。原稿を寄せて頂いた方々には改めて感謝申し上げます。14号は3月の懇談会でお話をいただいた小平市民生児童委員協議会会長の講演をまとめました。(瀧口)